

# 平成29年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立桐蔭高等学校 学校長名： 清水 博行 印

目指す学校像	自ら人生を切り拓く人を育てる学校
育てたい生徒像	改革への情熱と伝統を重んじる心を兼ね備えた生徒

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1	主体的な学習姿勢の育成につながる教員の更なる指導力向上
	2	高い進路目標を実現させるための組織的かつ系統的な取組の充実
	3	生徒の自主的・自律的な生活習慣・学習習慣の確立
	4	中高一貫教育の充実深化に向けた具体的方策の構築

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

自 己 評 価					年 度 評 価 ( 2 月 1 6 日 現 在 )		
重 点 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況		
号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策	
1	高等教育機関への進学を希望している生徒に対し、その基盤となる知識・技能を定着させることが現在の課題である。「押しつけられた学習」でなく、「わかる授業」更には「面白い授業」へと授業の質の向上をはかり、生徒に学習意欲や目的意識を持たせることで、学習時間を増加させるとともに、主体的・能動的な学習態度を育成する取組が必要である。	生徒の自主性を高め、学習意欲を喚起する授業が各科目において展開されているか。 生徒の実態把握に努め、実態に応じた指導がなされているか。教科の教員が全体として学習指導方法の改善に取り組んでいるか。	・進学補習や基礎補習の充実 ・個別指導の充実  ・学年・教科等の連携による家庭学習時間確保の指導 ・桐蔭STの分析および対策  ・家庭学習の指導を踏まえた計画的な課題提示のための教科内外での情報交換協議	・各種補習の総時間数の確保 ・添削指導や個別指導、質問対応の実施状況  ・実態調査にみられる家庭学習2時間未満の生徒の割合減少  ・学年会・教科会での情報交換、協議の実施	A	研究授業や公開授業を積極的に行える体制を維持し、職員間の指導法の共有およびさらなる授業力の向上を目指す。 家庭学習時間の増加および自発的・能動的な学習の推進のためには、学校・生徒・家庭の連携はもちろん、いかに教師が動機付けをし、主体的な学習態度を育成できるかが今後の課題である。同時に計画的な課題提示が出来ているか検証していく必要がある。	
2	生徒の多くは、憧れの高校に入学出来た喜びと、文武両道を実践しようとする意志を持って入学してくる。しかし、自分の持つ才能や能力を十分に活かせる将来設計や、大学進学が出来ていない生徒も少なくない。難関大学への進学を本気で目指し、努力する生徒集団に育てることが課題である。そのための基盤となる能力や態度を育てることを通じてキャリア発達を促し、一人一人の進路希望の実現と、高い能力を活かした将来設計のための組織的かつ系統的なキャリア教育が必要である。	生徒のキャリア発達を促し、自らの進路実現に向けて意欲的かつ自律的に学習できるよう、具体的な取組が系統立てて展開されているか。 自らの人生を切り拓きつつ、社会に貢献できる人材育成のために、基礎的・汎用的能力を育成するための指導を組織的に行っているか。	・教科「キャリア桐の葉Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の各プログラムの実施 ・桐蔭リーダー塾やジョブシャドウイング等の体験学習の機会の有効活用  ・「進路だより」による継続的な生徒への働きかけ、進路講演会、オープンキャンパス、桐蔭総合大学等への積極的な参加の啓発  ・日常的な面談等を通して生徒自身による現状分析と課題の発見を促し、自学自習力をつける  ・教員の指導力強化と生徒情報の共有	・「キャリア教育・進路に関する調査」、「付きたい力30」、「学びの意識調査」等の各種調査を用いた分析・評価  ・「進路だより」の発行時期と内容 ・開催回数や参加人数及び生徒への事後アンケート等による調査  ・難関大学への出願者数120名  ・全教員が少なくとも1回の研究のための現職教育、進路検討会や成績分析会議の実施	A	探求型への内容修正と社会貢献を軸にしたキャリア形成のための能動的な学習を促せるように学校行事との連携を模索する。入試改革の進む中であるので、情報提供のあり方に最善の注意を払うこと。具体的には「進路便り」や担任への速やかな情報提供を心がけ、進路指導部の教員を中心にアンテナを高くし、各種研究会にも積極的に参加していくこと。難関大学へのチャレンジの意欲が年々高まっており、学年全体の雰囲気にも表れている。結果を恐れずに最後まで第1志望を貫き出願させる体制を、職員全体の共通認識としてつくり出す。新テストに向けての体制を整えていく。保護者会や地区懇談会、三者面談を通して「挑戦」の進路指導を共有すること。	
3	一部に遅刻、身だしなみの課題を残すが、生徒は概ね規律ある学校生活を営んでいる。今後は生徒のキャリア形成に資するよう、風紀面に留まらず学習活動も含めて自立性の涵養が課題である。 また人間関係構築の未熟や心の課題を抱える生徒への支援の要請が強まっている。 生徒が安心して過ごす学校環境の維持といったその充実を図り、挨拶を皮切りに自ら踏み出すことへの積極性を育てる意識を職員共通のものとする。	生徒が自律的に行動し自己管理能力を高める支援のための重点項目としての、 ・遅刻、下校指導 ・交通安全指導 ・身だしなみと持ち物の管理指導 ・相談体制の組織化と効率化 ・職員からの声かけ、挨拶の励行 ・中高を一貫しての生徒指導が適正に行われているかどうか。	・年間を通じた校門指導と授業開始前の遅刻について自己責任3回以上繰り返す生徒数が半期で10人を越えない指導に取り組む。  ・交通規則の遵守指導を進め、警察によるセーフティーカード発行数50件以下を目指す。 ・毎月の登校時の校外指導の実施  ・身だしなみ指導と自転車無施錠指導5回以上の者が出ないことを目指す。 ・中高を通して携帯電話の規則違反を見逃さず指導する。 ・挨拶の意義の啓発  ・教育相談体制の点検と効率化 ・現職教育による教職員の理解 ・生徒情報の把握、共有と守秘	・通年遅刻者数の増減と個々の事情の把握 ・校内巡視の実施  ・PTAと連携した交通指導・交通事故の発生件数とその把握、対応の様子 ・県警からの連絡  ・身だしなみ指導件数 ・駐輪場の施錠及び使用状況 ・来校者の反応 ・外部からの提言  ・カウンセリング室利用状況 ・ケース会議の実施状況 ・情報共有の具体的手立て	B	現在の取り組みを継続する。その上で個々の生徒の状況把握や情報の共有についての職員の意識向上とシステムの効率化を進めねばならない。 生徒に対しては、指導をすることよりも、指導が必要になる以前の相談や声かけをさらに密にすることが望ましい。行事や各作業分担の効率化を図り、生徒の様子を精査できるゆとりを増やす。 外部機関や地域との連携についても、その活用を図る。生徒・保護者に対して様々なセーフティネットの存在を周知し、活用を促すことも進める。	
4	FD・キャリア会議により、中高の教職員が互いの課題を認識する機会が出現している。キャリア教育を核とした中高一貫教育の現状の改善点を模索し、新たな展開を模索する。	中高一貫の具体的な検討が進んだか。 2年次からの内進・外進生の混合クラスによる成果と課題が検証できたか。	・中高の教職員によるFD研究テーマの設定や公開授業の実施による課題意識の共有  ・次年度に向けた成果と課題についてFD・キャリア会議での検討	・FD・キャリア会議等での情報意見交換会の実施。互いの公開授業の実施・見学状況  ・FD・キャリア会議での検討内容	B	全教職員による研究授業を中高がお互いに参観する機会が多くなり、中高職員が交流し学習内容を共有する機会が増えた。今後の入試制度改革に向け、中高一貫教育の新たなあり方を検討していく必要がある。	

学校関係者評価
平成30年 2月16日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>*熱心な先生方に見守られ指導されていると感じる一方、生徒たちがその情熱になかなか気づきえられていない一面もあるのではと感じる。</p> <p>*先生方の礼儀正しさ、誠実さ等を実感している。</p> <p>*PTA 早朝指導のあと、課題等について話し合う時間を持つ等、保護者からの意見を吸収する場を設定しているところが良い。</p> <p>*キャリア教育の中で、生徒のやりたい仕事を見極めさせ、その目標に向けて自主的に努力させる姿勢をつけさせることが大切であるから、現在の本校の取り組みは正しい方向であると思う。</p> <p>*将来に向けてのキャリア教育が十分に考慮されている。</p> <p>○生徒自身の才能や能力の発見への支援をどのようにしていくべきか大きな課題の一つであると感じる。</p> <p>○地域との関わりの中で、ボランティア活動や、社会的弱者へ目を向けその支援をめざすといったような具体的で深い内容を学ぶ機会を増やす必要がある。</p> <p>○生徒たちが自己肯定感を高めていく指導や取り組みもさらに必要である。</p> <p>○「教職員の健康増進、維持のための対策が適切にとられている」というアンケート項目の肯定的評価が低い。働き方改革を工夫して押し進めていく必要がある。</p> <p>○キャリア教育の視点から、授業や学校行事等を教育関係だけでなく様々な社会領域まで広げ公開し交流していくことも必要である。</p> <p>○県内の他中高一貫校との情報交換も密にしながら、中高それぞれの良さをのばしていく指導をお願いしたい。</p> <p>○中高6年間のキャリア発達も踏まえ、一辺倒ではなく、いろいろな教員がいろいろな視点から効果的な進路指導を行ってほしい。</p>